

第2回検証会議より～ 今後の話し合いの論点まとめ

2014/08/18

<定義>

- ・1つ1つの「言葉の意味」を明確にしてほしい
- ・「市民が主体的に」とは？（市民参加？）
- ・「協働」の意味が分からないので明らかにしたい
- ・「尊重する」とは具体的に市民の意見や要望をどうすると「尊重」したことになるのか？

<市民の定義>

- ・「市民の定義」をどこまで広げるか
- ・「市民の定義」について施行している市町村の状況について
- ・住民以外に「市の意思決定に関わる権利」を認めていいのか？
- ・公共性や正当性のない「市民」の意見で物事を決めていいのか？

<市民の権利>

- ・「弱者、少数者の視点」からの条例の条項、条文の検討（まちづくりへの参加と権利保護）
（こども、障がい者、女性、高齢者、外国人）
- ・「豊かな文化を受ける権利条例」を加える。
- ・「市民の権利」の意味について

<条例の位置づけ、意義、改正>

- ・自治基本条例は本当に市民に「必要」なのか？
- ・「理念」を条例にする、法にするのは思想の押し付けであり、全体主義思考であり危険。「市民」の考えは1つではない。
- ・条例が存在することは、「何かあった時のよりどころ」になる。だから意義がある。
- ・「最高規範」と言うが、自治が最高でいいのか。
- ・「第二条の主語」は誰？
- ・「市民憲章」との関連、関係について
- ・「条例改正」の手続きは？

<議会・議員>

- ・「議会」の意思決定を制限する内容は改めるべき。
- ・「市議」は選挙で選任された経緯から考えると、あえて条例に載せるのは違わないか。
- ・「市議さん」の能力を「住民、市民と協働しましょう」の表現の方がよいのでは。

＜市政運営に求めるもの＞

- ・自分のリズムでなく「スピード」を求める。
- ・市役所側に「専門分野プロフェッショナル」を入れる。
- ・市民参加型なら「子供にもわかりやすいもの」がほしい。
- ・年寄り向けでなく、「若者が楽しく過ごせる企画」がほしい
- ・「市民参加プランを早く明示」してほしい。
- ・「市営（市政運営）を3年ぐらい先までのプラン提示」を願いたい。
- ・「周年事業の計画を市民に早く知らせ」参加しやすくする。
- ・専門的な……。例えばホール1つ作るにもよく「集まって討議、論議する場」を作りたい。

＜条例の認知度を高める～わかりやすく＞

- ・自治基本条例の「認知度を高める」には？
- ・市民に条例について「知らせる努力を具体的」に！！
- ・最高規範と言っているのに「市民が知らない」のはおかしい
- ・この条例の市民への「認知度、理解はどの程度必要（最低限）」なのか。
- ・子供たち（若い世代）にも知ってもらえるような「条例パンフ」があれば、若者にも知ってもらえる
- ・「中学生が理解できる」条例くらいにするには？
- ・安城市の憲法として位置づけられるなら、「学校で学習する機会」を作ったらよいのでは？きちんと理解できなくても、聞いたことがあるくらいでもよいのではないか。
- ・条例の周知徹底（は困難）とは言いながら、「機会あるごとにPR。知ってもらうチャンス」を作る。
- ・「あれもこれも」といった幅広い条例になっている。「もっと縮めて、分かり易く」する。
- ・条例の疑問を「Q&Aの形でわかりやすく説明」。「イラスト」も入れて。
- ・「身近にメリット、デメリットのある例を紹介」して条例の理解度を向上する。条例を知っていると「得するかな？」「得するよ！」
- ・「条例に基づく活動例」を示す。「興味を持ってもらう工夫」をする。条例を知ってこんなことをしたよ！具体例を知って自分の夢を実現しよう

＜逐条解説＞

- ・「逐条解説」は簡単に変更できるのか
- ・「逐条解説」の「市民の責務」の言葉が厳しい感じがする。
- ・条例の条文と「逐条解説」が一致しているか。違う所がある気がする。

＜その他＞

- ・「町内会組織がもっと役立つもの」でないと自治は育たない。
- ・「住みやすいまちづくり」をするために何をすべきか？
- ・「文化交流の大箱」がほしい。文化ホール。

以 上